

2022年4月18日

あきる野市と日産自動車、電気自動車を活用し脱炭素化と防災力強化に向けて連携 ～『ブルー・スイッチ』177件目、EVを活用した連携協定を締結～

あきる野市(東京都あきる野市、市長:村木 英幸)と、日産自動車株式会社(本社:神奈川県横浜市西区、社長:内田 誠)、日産東京販売株式会社(本社:東京都品川区西五反田、社長:竹林 彰)の3者は、18日、電気自動車を活用した「災害連携協定」を締結しました。

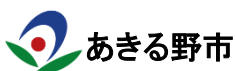
本協定は、「走る蓄電池」となる電気自動車(EV)の普及や脱炭素化の推進と同時に、あきる野市で災害による停電が発生した際、日産の販売会社から貸与する電気自動車「日産リーフ」を電力源とした災害時の電力供給体制の構築を目的とした協定で、ゼロ・エミッション社会の実現を目指す日産の『ブルー・スイッチ』活動としては177件目の取り組みとなります。

【協定の経緯・背景】

あきる野市は、環境対策や、防災対策に取り組んでいるほか、持続可能で強靱なまちづくりを目指し、SDGs推進にも積極的に取り組んでいます。

一方、日産自動車は、電気自動車(EV)ならではの新たな価値やワクワクを提供し続けるとともに、2018年5月より、電気自動車(EV)の普及を通じて、環境、災害対策、エネルギーマネジメント、観光、地方での交通課題などの地域課題解決を目指す、日本電動化アクション『ブルー・スイッチ』を、全国の自治体や企業、販売会社と共に推進しています。また、2030年代早期には、主要市場で投入する新型車すべてを電動車両にすることを宣言、電動化をリードしながら、SDGsの達成やカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを加速しています。

この日産自動車が進める『ブルー・スイッチ』、そして、あきる野市が進める環境・防災対策やSDGsの推進と、双方の取り組みにお互いが賛同し、本協定の締結を行う運びとなりました。



【協定の概要と主な連携内容】

電気自動車を活用した「災害連携協定」の概要は、以下の通りです。

- ・ あきる野市および日産自動車、日産東京販売は、平常時も電気自動車(EV)の普及促進を行うほか、市のイベントで使用する電力を電気自動車(EV)から供給することで、電気自動車の「走る蓄電池」としての活用を市民へ積極的にアピールし、環境・防災意識向上を目指す。
- ・ あきる野市で災害を起因とする停電が発生した際、避難所等において、電力不足が想定されることから、日産の販売会社の店舗に配備している電気自動車「日産リーフ」を無償で貸与し、電気自動車(EV)からの給電により、災害時にも避難所等で継続して電力が供給できる体制を整え、市民の生命、身体及び財産の安全を守る。



電気自動車「日産リーフ」を活用した脱炭素化、強靱化イメージ図

あきる野市と日産自動車は、本協定締結を機に、電気自動車(EV)を活用した、環境に優しく災害に強い持続可能なまちづくりを推進し、美しい自然環境を未来に残すため、電気自動車(EV)の普及を通じた地域課題の解決、脱炭素化社会実現、SDGs 達成に向けて、更に連携を強化してまいります。

以上

First Contact Nissan Technology: <https://www3.nissan.co.jp/first-contact-technology.html>

日本電動化アクション「ブルー・スイッチ」: <https://www3.nissan.co.jp/first-contact-technology/blue-switch.html>